

施工仕様書 「グッセラ・GローラーSi(特)」

用途 住宅、マンション、事務所、店舗、学校、その他の建築物(新築・改修)の内外壁面。
適用下地 旧塗膜面、磁器タイル等の改修下地。コンクリート面、セメントモルタル面、
プレキャストコンクリート部材、ALCパネル、その他各種板・ボード類等。
施工不可部位 天端(笠木・手すり・セットバック等)や幅木、パラペットの施工は避けてください。

- ※ 本施工の前に必ず試験塗装を行い、希釈量(粘度)・塗付量(厚み)・色調等を確認し、標準見本が再現できるよう確認してください。
- ※ 表中の数値は標準状態および塗装面が平滑時の値です。施工時期・下地の形状・状態により、多少の差異を生じる事があります。間隔時間は気温23℃(湿度50%)の場合ですが、低温・高温等で乾燥条件が悪い環境の場合は間隔時間を長めにとってください。

【目地なし】

工程	使用材料名と調合割合	所要量 (kg/m ²)	使用器具	回数	間隔時間	
1	下地調整	・新設下地の場合、補修・清掃を実施した上、必ず下地の種類に応じたシーラー処理をしてください。 ・改修の場合、旧塗膜の状況や素地の状態に応じ、必要な処理および下地調整をしてください。 (脆弱塗膜の除去、水洗(24時間以上乾燥)、補修、シーラーや下地調整塗材塗布など)				
2	下塗り (ローラー塗装)	セラプライマーカラーHi 16kg 清水 0~0.8kg	0.2~0.3	・ウールローラー ・塗料用刷毛	1~2	3時間以上
3	主材塗り (下塗り)	グッセラ・GローラーSi(特) 20kg 清水 0.4~0.8kg	1.2~1.5	・砂骨ローラー	1	4時間以上
4	主材塗り (上塗り)	グッセラ・GローラーSi(特) 20kg 清水 0.4~0.8kg	1.2~1.5		1	24時間以上

【目地あり】

工程	使用材料名と調合割合	所要量 (kg/m ²)	使用器具	回数	間隔時間
1	下地調整	・新設下地の場合、補修・清掃を実施した上、必ず下地の種類に応じたシーラー処理をしてください。 ・改修の場合、旧塗膜の状況や素地の状態に応じ、必要な処理および下地調整をしてください。 (脆弱塗膜の除去、水洗(24時間以上乾燥)、補修、シーラーや下地調整塗材塗布など)			
2	目地着色	目地着色材 20kg 清水 0~2kg	0.15~0.4 ・ウールローラー ・塗料用刷毛	1~2	24時間以上
3	墨出し	設計や元請の指示に従い目地割りし、水盛、振り下げまたはトランシットを使用して墨出しをしてください。			
4	目地テープ貼付	目地テープを墨出しに沿って、正確に貼り付けてください。			
5	下塗り (ローラー塗装)	セラプライマーカラーHi 16kg 清水 0~0.8kg	0.2~0.3 ・ウールローラー ・塗料用刷毛	1~2	3時間以上
6	主材塗り (下塗り)	グッセラ・GローラーSi(特) 20kg 清水 0.4~0.8kg	1.2~1.5 ・砂骨ローラー	1	4時間以上
7	主材塗り (上塗り)	グッセラ・GローラーSi(特) 20kg 清水 0.4~0.8kg	1.2~1.5	1	0~10分
8	目地テープ除去	主材表面が乾燥する前に目地テープを取り除いてください。			24時間以上

※ 注意事項

※ セラプライマーカラーHiは1回塗りで下地の隠蔽が図れない場合は2回塗りを行ってください。(目地仕様などの場合)

※ グッセラ・GローラーSi(特)はマイカの偏りが生じないように周りのパターンに合わせながら、施工してください。

- ・ 施工前にテスト塗装を行いパターン、ローラーの運び具合、材料粘度を確認してください。
- ・ 主材塗りは砂骨ローラーを使用してください。他のローラーを使用すると仕上がり状態、塗装作業性等に著しい影響を与えます。
- ・ 模様が高くローラーで施工できないホード類、テクチャーもあります。凹凸が深くてローラーが入り込まない場合は、事前に塗料用刷毛等で塗りこんでください。
- ・ まずコーナー部(入隅)を塗布してください。この時、塗布量が多いとひび割れが起こりますので注意してください。
- ・ 入隅、出隅部は塗料用刷毛で塗りこんでください。
- ・ 既存塗膜のパターン(テクチャー)により、所要量は変化しますのでご注意ください。
- ・ 仕上げ模様は、施工時の温度、希釈率、塗布量などによって異なりますので、予め試し塗りを行いください。
- ・ 主材下塗り
 - ① 均一にローラーに含ませて、隠蔽するようにムラなく塗装してください。
 - ② まず、コーナー部をコーナー用ローラー、筋違い刷毛で面を囲むように塗ってください。
 - ③ 中央面の塗装はタテくばり塗りし、次に縦、横とローラーを転がしてローラーマークが生じないよう、また、厚塗りにならないようにならし塗りしてください。
 - ④ 主材下塗りはやや軟らかめの材料で、目をあまり立てずに平滑に塗装してください。下地に材料がムラなく付着する程度に塗装します。
 - ⑤ 配り塗りした材料は、ローラーを上下左右にならし塗りをを行い、ローラーマーク、付着ムラをなくしてください。
- ・ 主材上塗り
 - ① 主材上塗りは材料粘度をやや固めにし、下地のパターンを活かしながら、きれいに見える様に塗布してください。
 - ② 塗装方法は主材下塗りと同じですが、仕上工程となるので、ならし塗りを特に丁寧に行い、塗りムラを防止してください。
 - ③ 主材下塗りのパターンと揃うように塗布することが綺麗に仕上がるポイントです。